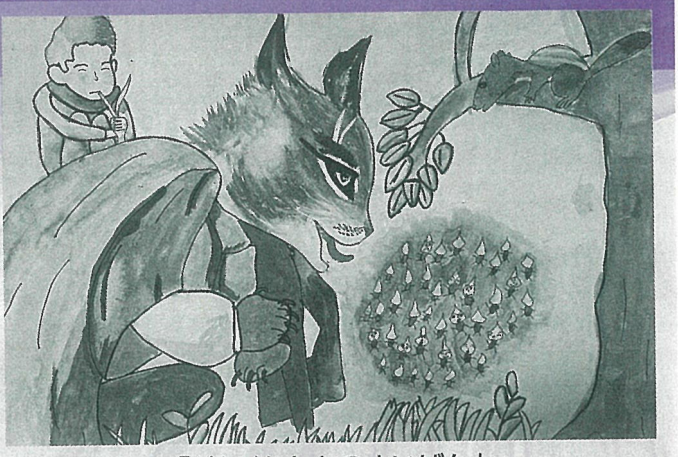
恵那市教育研究所
http://www.ena-gif.ed.jp/
恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階
TEL(0573)26-2111 FAX(0573)26-2155
令和3年 No.266 11/16

恵那市教育研究所だより

えな



「どんぐりたちのさいばん」
明智小学校 6年 宇田 倖菜

その子らしさを大切にする保育を目指して

園長会長
東野こども園園長 小木曽 真由美

私がまだ若い時、金子みすゞさんの詩「わたしと小鳥とすずと」の一節「みんなちがって みんないい」という言葉に出会いました。「みんなちがって みんないい」という言葉の意味を私なりに解釈をしてみました。一人ひとり違う「その子らしさ」「その子のよさ」を見付け、ありのままの姿を見守れる保育者になりたいと願ってきました。

しかし現実のクラス運営では、そんなことばかりは言っていられないのが現状だったと、今になって反省することばかりです。

子どもたちのすぐ近くにいて一番その子を理解していなければならない担任という立場なのに、何か取組がある時には、みんなと同じように出来るようにしたい、出来るはずと焦っていた自分がよくありました。一日の保育が終わると反省し、この詩を思い出していたものでした。

そんな中でふと思い出すあるお母さんの話があります。園長として同席した懇談会で担任が「お子さんのよい所を教えて下さい。」と聞きました。順番にお母さん方がわが子のよい所を話してくださる中でそのお母さんの所へ来ると、しばらく静かに間をとって「ずっと考えているんですけど、わが子のよい所が出てきません。分からないんです。先生教えて頂けませんか。」と逆に担任に聞き返してみえました。懇談会が終わり、そのお母さんと直接話をした時に言われたことは「他の子とつい比較してしまって、我が子のよさよりも出来ていないことの方がいっぱい出てきてしまう自分がいました。でも担任の先生は我が子のことをよく見ていてくださって○○のよい姿をたくさん教えてくださいました。これからは、わが子のそうした姿をちゃんとみて認めてあげられる母親になりたいと思います。」と言われました。正直私は、お母さんと話をするまでは「我が子のよい姿がわからないなんて」と批判的な見方をしていました。しかし、よく話をして、自分が担任をしていた時と重なり合う所があることに気が付きました。

一番わが子のそばにいて、一生懸命に子育てをしているお母さんだからこそ、もっとこんな姿であって欲しい、こうあって欲しいと願いや思いが強くなってしまうのだと思いました。

今、現場から少し離れた立場で、一人ひとりの子どもたちを見ていると、その子らしいキラリと光る素敵な姿が垣間見られることが多くなってきました。自分の役割は、一生懸命にクラス運営をしながら悩んでいる保育者や子育てを頑張っているお母さんたちが、安心して子どもたちや我が子に向き合えるように、その子のキラリと光った姿を言葉で伝えていくことだと強く思うようになりました。そして園児たちには「自分らしさ」や「自分のよさ」を安心して出しながら「ここなら大丈夫」と思える園生活を保障していくことだと思っています。その中で、安心感をもち、みんなちがって みんないいと自分のことを肯定して見られる子どもたちを育てていきたいと願っています。そんな保育を目指して、一人ひとり違う「らしさ」を探す日々をこれからも大切にしていきたと思います。

R80
古紙配合率80%以上再生紙を使用しています

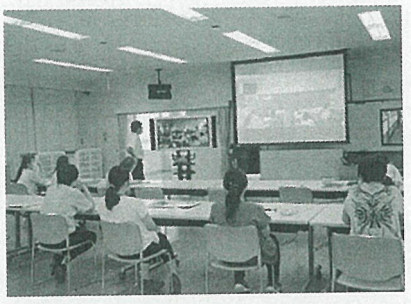
特集 ICT教育の推進

2学期開始時 全校的な取組での活用

三郷小学校

２学期当初、緊急事態宣言下の行動制限がある中、本校では、全校的な行事や活動を進めるためにロイロノート・スクールの機能を活用しました。

【夏休み作品展】



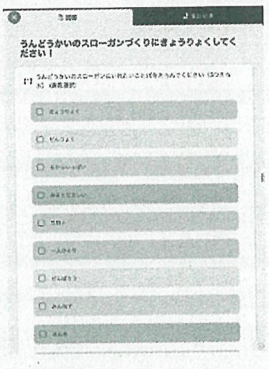
８月30、31日に、夏休み作品展を行いました。

体育館に子供達の夏休みのがんばりが集結しました。学年毎に交替して鑑賞し、交流しました。例年は、ご家族の方の参観があるのですが、感染対策のため、今年度は、写真に収めたものを各家庭で見て頂くことにしました。

子供達は、自分の作品のよさが分かるように、３～５枚程度撮影しました。それらの写真を各自繋いだり１枚に構成したりしたものを担任が合わせ、「夏休み作品展」のフォルダに格納しました。１年生も、自分の作品を撮影し、自分で提出箱に入れました。

９月3～5日、持ち帰ったiPadを使い、ロイロノートの資料箱から全校児童の作品データを出し、お家の方に自由に見て頂きました。

【運動会　スローガン決め】



運動会に向けてのスローガンについての意見は、直接、児童会と運動会実行委員会が各教室に出向いて聞く活動ができませんでした。そこで、「アンケート機能」を使い、スローガンに込める思いや使いたい言葉などを考え、全校で選んだり、自由記述で意見を求めたりしました。集まった全校の思いを受け、児童会がスローガンを完成させました。

「一人一人の底力を出し、最高の運動会にしよう！～全力・協力・思いやり～」運動会を最大限に楽しむためには、全力でやりきること、そして、一人一人の協力と思いやりが大切だという思いを込めて、このスローガンが決定しました。スローガンの下、全校児童は、練習や事前活動に一生懸命取り組み、当日も力を尽くす素晴らしい運動会になりました。

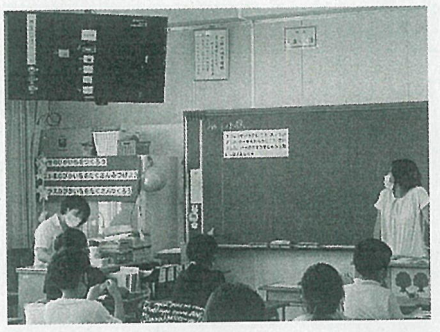
算数科を中心に授業改善

大井小学校

本校では、研究の中心を算数科とし、「一人一台のタブレットを効果的に活用した授業づくりを通して」をサブタイトルとして掲げて研究を進めています。

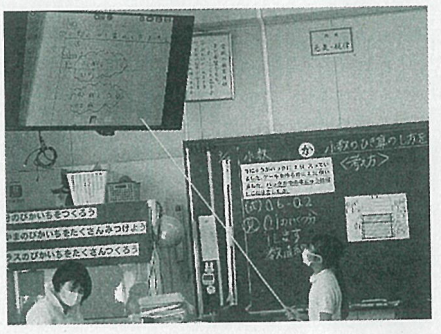
先日９月15日に、全校研として行われた3年算数「小数のたし算・ひき算」を中心にお伝えします。

【見通しを持つための工夫】

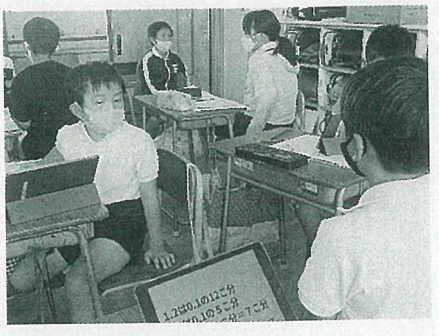


導入時に、前時までの学習内容で、本時に関連する事項を確かめるため、大型ディスプレイにロイロノートで作成した資料を表示しました。画面を見ながら発言させ、「0.1のいくつ分」という考えを短時間で確かめることができました。既習内容の確認が、課題に対する見通しを持つことにつながりました。

【「提出箱」、「資料箱」の有効活用】



ほとんどの児童が見通しをもとに、自分のノートに書くことができました。その考えをロイロノートの写真機能を使って撮影し、「提出箱」に提出させました。「リットル図」・「数直線」・「言葉の説明」の3つの考えを大型ディスプレイに提示して発表させることで、学習の効率化につなげることができました。



また、まとめ後の評価問題に取り組む時には、「0.1のいくつ分」を使った話し方ができるよう、教師が「資料箱」に用意した「話し方の例」をもとにして、ペアで問題の解き方を説明し合うようにしました。

特集 ICT教育の推進

上矢作小の特色を生かしたICTの活用

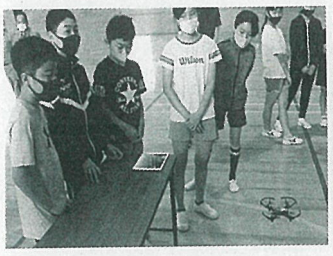
上矢作小学校

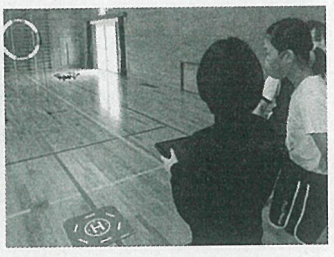
【総合的な学習の時間：ドローン学習】

今年度、本校では日本赤十字社の補助金で、ドローン（プログラミング用８台、撮影用３台）を購入していただきました。また、その補助金を活用して、『株式会社ＲＯＢＯＺ（ロボッツ）』のドローンを活用した授業を、５、６年合同で年間７回行います。

授業では、タブレット端末を使って、プログラミングによるドローン操作の体験学習を行っています。今後は、地域におけるドローンの未来の活用法を考える学習を行う予定です。

この学習を通して、プログラミングの楽しさや今後の可能性を実感することができました。



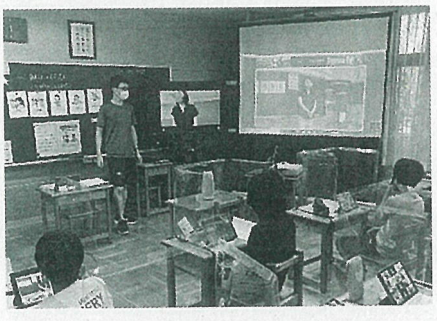


【外国語：串原小と合同授業】

９月29日に、上矢作小と串原小の６年生が、合同で外国語の授業を行いました。今回は、「夏休みの思い出の紹介」という単元の出口の学習を、ＺＯＯＭを使って行いました。

全員がロイロノートで夏休みの思い出のスライドを作成し、それを少人数のグループで交流しました。交流にはブレイクアウトルームの機能を利用し、全員がイヤホンマイクを使用することで、効果的に遠くにいる串原小の６年生と交流をすることができました。ミーティングオウルを使って、教室の音を集約したり、お互いの教室全体の様子をプロジェクターで映したりすることで、一体感を感じられる授業となりました。

少人数の学校間で交流することで、互いに有意義な学習活動となりました。



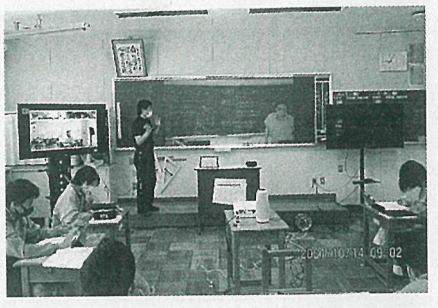
ドローン学習・遠隔合同学習

上矢作中学校

【ドローン学習】

本校では、今年度、日本赤十字社岐阜県支部恵那市地区青少年赤十字事業の助成を受けて、ドローン学習を年間７回実施しています。また、総合的な学習の時間の学習内容にある「上矢作プロジェクト」においてドローンを活用した「地域貢献」を行うための学習として位置付けています。上矢作のために何ができるのか考え、ドローンの活用をしていきます。ドローン学習は、『株式会社ROBOZ（ロボッツ）』代表取締役の石田宏樹様をお招きして、ドローンの活用方法や操作技術を学んでいます。iPadのアプリを使用してどのように動かすのかプログラミングを考えたり、iPadの画面を通じて直接操作したりと、様々な操作方法を教えていただいています。何より生徒たちが楽しく活動して、笑顔あふれる授業となっています。

【遠隔合同授業】



本校と串原中学校において、合同短学活や数学における合同授業を実施しています。短学活では、自己紹介をしてお互いのことを知ってもらうことから始まり、１週間の目標や振り返りを交流し、学級を高め合うことに取り組んでいます。また、２学期に入り、１年生の数学では、串原中学校と授業支援ソフトとしてロイロノートを活用し合同授業を行っています。より多くの考えに触れることができ、理解を深めることができました。

今後は、恵南５校において様々な教科で実施していく予定です。

（生徒の感想より）
- 普段よりも意見がたくさん出てくるところがよかった。
- 相手にどのように話をしたら伝わるのか考えてできた。
- 普段の授業よりもゆっくり丁寧に進めているので、一つ一つのことが理解できたからよかった。
- 自分たちだけだと考えられない意見が出るところがよかった。

コミュニティ・スクール活動

長島小学校

「この町に住みたい」と思える子どもたちに

本校のコミュニティスクールの活動は「できる人が、できる時に、できることを、できる範囲内で」を原則におこなっています。

毎年、多くの地域の方に関わってもらいながら、子どもたちは安心・安全な学校生活を送っています。今年度の「学校支援ボランティア」の取り組みの計画です。

1　学習支援ボランティア

地域学習、地域講師、体験学習、読み聞かせ、学林体験、福祉体験など

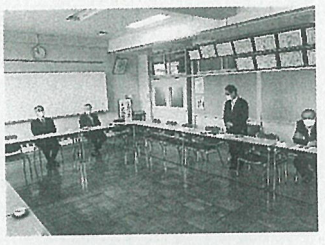
2　安心安全ボランティア

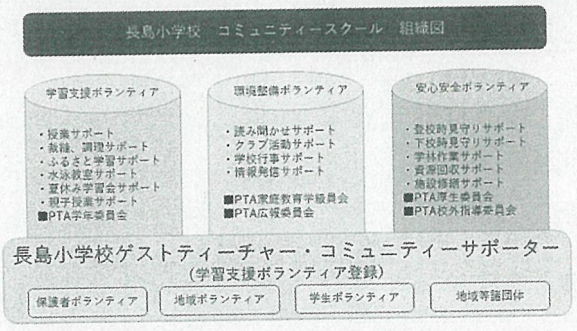
登下校支援、見守り隊、ちょぼパト、プール当番支援、地域防災デー

3　環境整備ボランティア

学林作業、除草、樹木剪定、運動場整備、校舎修繕など学校だけでなく、保護者、地域が子どもたちのために何ができるのかを考えています。年度当初に学校運営協議会を開催し、協力の依頼をします。

今年度１学期に計画していたことが新型コロナウイルス感染拡大のため、実施を延期、または中止となりました。今後、状況を見ながら実施をしていきます。昨年度実施できたことを紹介させていただきます。





4　歴史に触れる中山道探索

６年生が、中山道の探索を行いました。普段何気なく歩いている道が、昔の人が使っていた道だという不思議な感じを抱いていました。歩いている途中、史跡があれば立ち止まり調べていました。恵那市はまだ他にもたくさんの歴史的史跡があり、歴史について興味をもつことができる活動です。

5　地域の森で秋みつけ

１年生が長島小校区にある「リコーの森」で体験をしました。テーマは「秋みつけ」です。毎年、リコーの森の方にご協力いただき、行っています。小学生になって初めての校外学習となりました。校区内にある場所を子どもたちが知ること、その場所がどんな場所なのかを実際に体験して感じること。長島町のひとつの自慢となることを学習します。

6　学校林を守るために

長島小学校林は長島小学校の宝です。毎年５年生が学校林のことについて学習しています。今年度はコロナの関係で縮小して、できることを行いました。事前学習では、学校林のことを調べ、社会科の授業では、森が果たしている役目などを学習しました。また、学校林管理委員会の方に協力していただき、「のこぎり引き」の体験を行いました。このため管理委員の方たちは、夏から丸太を学校林から切り出して、準備をしていただいていました。体験当日にも多くの委員の方に参加していただき、丁寧にのこぎりを使って丸太を切る方法を教えていただく活動です。

世の中の状況が大きく変化する中、活動については実施できるように工夫していきます。「長島に住みたい」と思える子どもを作ることを担っていけるような活動にしていきます。

コミュニティ・スクール活動

串原小・中学校

地域と学校で子どもを育てる

1　本校の学校運営協議会

学校運営協議会の本格的始動から３年目となる昨年度、学校と地域との連携や情報交流をスムーズに行うことを目的に、学校運営協議会の中心的な役割を担う「運営部会」（代表機関）を新たに設置しました。そして、具体的な活動を企画し、運営する「地域教育支援部会」「学校教育支援部会」の２部会をその下に設け活動しています。

第1回の協議会では、「子どもたちが素直にふるさとを大切に思う気持ち」を育みたい、そのために様々な体験をさせたいという願いを確認しました。

2　令和２年度の活動

①　中学校３年生との話合い

「地域の活性化」をめざした学習を展開していた３年生が考案した「地域食材を使ったお弁当づくり」と串原温泉ささゆりの湯での販売についての意見交流を行いました。その後、地域の皆様の協力を得て、３月には販売が実現しました。

②　くしはら伝統文化後継者育成事業の開催

コロナ禍の影響で地域の文化祭が中止となりました。子どもたちの発表の場を確保したいという願いのもと、歌舞伎保存会・中山太鼓保存会・串原振興事務所・コミュニティセンターの皆様の協力を得て、学習発表会を開催することができました。

③　アゲハの舞う丘プロジェクトへの参加

串原振興事務所と串原コミュニティセンターが企画した柑橘の苗木を植えるイベントに、ＰＴＡの家庭教育委員会と連携し、児童生徒や保護者に参加を呼び掛けました。６割を超える参加がありました。

3　令和３年度の活動

①　分散（個別）で第１回協議会を開催

コロナ禍のための緊急事態宣言を受け、参集型での開催が困難であったため、個別で「学校の運営方針」についての説明・承認を行いました。

② 児童生徒の登下校の見守りを地域に依頼

千葉県で発生した交通事故を受け、壮健クラブの方を中心とした地域の皆様に、児童生徒の登下校の見守りについて相談しました。地域で子どもたちの安全を守るという意識のもと、連携を強めた動きになりつつあります。

③ 統合50周年を記念した事業を企画

地域に2つあった学校を統合し、現在の場所に校舎が建築されてから50年の節目を迎えるにあたり、小・中学校の運動場で、地域の皆様とともに記念写真を撮影することを企画しました。コロナ禍ですが、地域住民がひと時を共有し、ふるさとの思い出の１つとなるよう願っています。

④ くしはら伝統芸能後継者育成事業の開催

地域の文化祭は中止となりましたが、今年は、歌舞伎保存会・中山太鼓保存会が主催となり、串原の伝統芸能を継承していく会を開催します。各保存会メンバーから、児童生徒の発表に対して指導・講評をいただくことに加え、伝統芸能を伝承する思いも伝えていただくことで、「地域で子どもを育てる」ことの具現をめざしていきます。

豊かな心とたくましく生きる力が育つことを願って

～子どもの心が動く遊び、体つくりを通して～

こども園紹介　　明智こども園

明智こども園は街の中心部にありますが、少し足を運べば自然が身近な環境にあります。歩く機会が少なくなった今、園外に出て自然にふれながら歩く機会を多くして、体作りにつなげています。

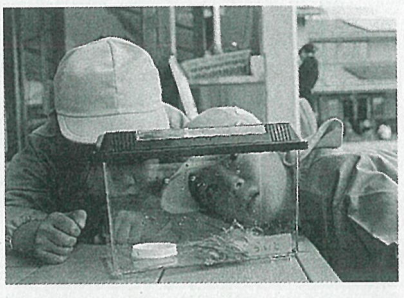
また、畑作りなど、子どもたちが「働く」ことで生活につながる力を付けています。

～自然の中で～

子ども達の散歩コースには明智の森や千畳敷公園などがあり、木々に囲まれた遊歩道が続き、自然にふれながら山道を登ったり、下ったりする中で、歩く力を付けています。歩く機会を重ねてきた年長児達は、小さい子の手を引きながらも山道を足取り軽く歩いています。

園の近くでは、地域の方のご厚意で田んぼを使わない時期に未満児や年少児が遊び場にさせてもらっていますが、高い畔に手をついて登ったり、滑り降りたり、飛び降りるなどして足腰を使う遊び場になります。当初は一人で登れなかった子も保育者に支えてもらいながら自分で登れるようになると得意気な顔をしています。そんな友達を見て拍手をしながら一緒に喜ぶ姿や、一人で登れない子に上から手を差し伸べている姿もあり友達を思いやる気持ちも育っていることに嬉しくなります。

また、子どもたちはバッタなど虫を見つけると競うように追いかけています。素早く跳ぶ虫を夢中になって目で追い、瞬時に手を出して掴むなど、機敏な動作も子どもの頃にさせたい体験です。自分で掴むと嬉しくて握りすぎてしまうことも…。力加減もこうした経験から覚えてくれたらと思います。



～身近な生き物や絵本から～

カエルの卵（おたまじゃくし）カナヘビ、ザリガニやカメ、メダカなどを掴んできたり、頂いたりした生き物を観察しながら飼育する中で成長や変化に関心をもっています。中には死んでしまうこともあり、命についても意識を向かせています。

3歳児のA君は言葉の発達がゆっくりで、友達とのかかわりも少なかったのですが、大好きなカブトムシにも手を引っ込めてしまう子が多い中、平気で掴めるA君はみんなから一目置かれるようになりました。そして、みんなで飼育ケースをのぞき込むと、周りの子とのかかわりも増え、言葉のやり取りにもつながってきたように思います。成長のきっかけはいろんなところにあるのだと改めて感じます。

飼育している生き物は子ども達には身近な存在で、興味をもった絵本の内容などと共に遊びや運動の題材にして取り入れています。保育者が園庭や保育室に絵本の中の登場人物などがいつの間にか現れたような仕掛けをしておくことで、子どもたちはお話の世界と園生活がつながって、ワクワク、ドキドキ…。集団あそびや運動会など行事に取り入れ、友達と共通したイメージをもって楽しむことができています。

また、野菜作りでは畑の草取り、耕す体験、農協まで苗や種を買いに出かけるなどしています。成長を見ながら収穫した野菜は給食担当の先生に調理してもらいます。

これからも子どもたちの身近なものから、楽しむ工夫をして体やこころの成長につなげたいと思います。

温故知新★ ONKOCHISHIN
心に残る遊び・授業・先輩・職員

化学変化と原子・分子　失敗

東野小学校　校長　　浅井　誠

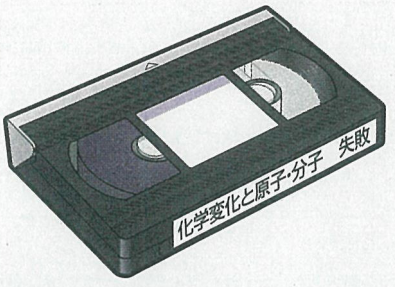
標題は、今でも大切に保管しているビデオテープのタイトルです。初任者として勤めていた中学校で、公開授業を行った様子を撮影していただいた私の“宝物”です。

『失敗』とあるように、授業は課題が多く残る内容で、覇気のない表情の子どもたちの姿が、今でも目に焼き付いています。授業研究会は、当然厳しいご意見ばかりでした。一番心に刺さったご意見は「今日の授業は、子どもを大切にしていない」でした。教材研究や指導案作成等、力を尽くしていた自負があったので、さすがにグッと込み上げてくるものがありました。

何故そのようなビデオテープを“宝物”にしているのか…それは、この『失敗』の授業から、その後の教員人生の糧とするものを得られたからです。私が得たこと…それは『子どもに軸足をおく』大切さです。子どもの実態に応じると言いながら、自分の引いたレールの上に子どもたちを乗せていこうとする自分がいました。自分の描くストーリー通りにならないと、自分の指導力を問うのではなく、子どもに責任転嫁している自分もいました。教師としてそのような構えではいけない…子どもに軸足をおき、子どもを絶対に大切にする教師になろう…そんな決意をもてた『失敗』の授業…だから“宝物”なのです。

それ以後も、『失敗』ばかりでした。しかし、『子どもに軸足をおく』を大切にし続けることで、自分が成長するために必要な『失敗』であると受け止められました。素敵な同僚の先生方にも支えられ、子どもたちと前を向き、歩むことができたと思います。

『化学変化と原子・分子　失敗』…このビデオテープは大切に保管し続けます。



全国緑の少年団活動発表大会in北海道

中野方小学校みどりの少年団
（後藤校長　柘植くん　山崎くん）

中野方小学校５年生は、『学びたい、先人の思い！　守り続けたい、中野方の自然！』をテーマに、森林学習を中心として総合的な学習の時間を行っています。平成28年には、「中野方小学校みどりの少年団」を結成し、坂折棚田や広大な森林などの豊かな自然を背景に、棚田での米作り、「森の健康診断」や「木の駅プロジェクト」などの森林・林業体験に加え、バイオリン演奏にも取り組み、地域の人達の協力を得ながら多様な活動を行っています。

令和２年度末には、年間の活動をまとめ、「岐阜県みどりの少年団活動発表大会」に参加しました。すると、中野方町が全国に先駆けてＳＤＧｓの考え方を取り入れ、実践している「木の駅プロジェクト」を中心とした活動が高い評価を受け、「みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）」をいただきました。

10月９日、札幌市の北海道大学で開催された「全国緑の少年団活動発表大会」において、代表児童２名が発表を行いました。地域の人達が長い間守ってきた中野方の農・林業や自然を団員みんなで学習・体験し、ふるさとを誇りに思い、自分たちにできることを見つけ、次に繋げようとする姿に会場からは大きな拍手をいただきました。秋篠宮殿下とのＷＥＢ交流もありました。緊張しながらも、いただいたご質問に答えていました。翌10日には、第44回全国育樹祭式典行事に参加し、「木育の玉手箱」をいただきました。

今後も、これらの学習を引き継ぎ、緑や自然、地域を愛する人へ健やかに成長してほしいと願っています。

活動発表の様子

表彰（中央が中野方小学校）

全国育樹祭での緑の贈呈
（木育の玉手箱）
中野方小学校（左）　額田中学校（右）